



わたし図書館はじめます ひとハコ図書館

自分が小さな図書館の館長になったら？
という構想を一箱にぎゅっと詰め込んだ「ひとハコ図書館」

今年のテーマは「図書館を知る／本を楽しむ」

「図書館」や「本」につながる館長さんと「ひとハコ図書館」が揃いました。

ひとハコ図書館	館 長
Pieni Kirjasto (ピエニ キリヤスト) 図書館	Haruka ja Satoko さん
最近の詩歌は楽しい図書館	金原瑞人さん
共和国国立図書館東久留米分館	下平尾直さん
アフリカは旅をする図書館	くぼたのぞみさん
水の中図書館	今野真@水中書店さん
TOKYO STREET FASHION LIBRARY	magnif さん
トロル図書館	トロルさん
その本、とーちゃんも好きだったよ図書館	はるやまさん
自由学園卒業生＋図書館	高橋和也さん
高校生のための図書館～2018 年春バージョン	ヨシダミチコさん
ものづくり情報ライブラリー 神奈川県立川崎図書館	かわとくん
すだちのまち図書館	豊中市立図書館さん
まちづくりのエンジンに！図書館	吉田めぐみさん
図書館の発行物を集めた図書館～東京23区編～	サイト「東京図書館制覇！」運営者 竹内庸子さん
岡潔先生を巡る図書館	すみれさん
「モグラ原っぱ&団地ライブラリー1964」図書館	ひーカンチョー（平賀研也）さん
「多摩デポ」図書館・東久留米分館	「多摩デポ」事務局員BONさん
シャーロッキアン養成図書館：中級編	レストレード&グREGスンさん
Fun Wonders 図書館	本の虫ユウさん
西尾物語図書館	PIRAFU さん
東野圭吾図書館	コータさん
シャーロック図書館	みちるさん
武侯祠図書館	青楽天さん

☆館長プロフィール

★ひとハコ紹介

■ Pieni Kirjasto (ピエニ キリヤスト) 図書館

館長：Haruka ja Satoko さん

☆フィンランドをこよなく愛する二人組。フィンランドに仕事や旅、文学などを通して親しみ、その素晴らしさを伝えるべく活動しています。

★ムーミンやサンタクロースはもちろんのこと、遠くて実は近い国フィンランドに少しでも親しみをもっていただけると嬉しい。フィンランドへの入口となるような本を選びました。

講演会：図書館のドアをひらく～私の出会ったフィンランド ■■■■

ムーミンの作者であるトーベ・ヤンソンを生んだフィンランドの生活やデザイン、文化、文学などについてスライドを交えてお話いただきます。

また、フィンランドの民族楽器「カンテレ」の演奏もあります。

講師：大橋はるかさん（元飯能市立図書館副館長）

阿川聰子さん（元フィンランド大使館職員）

演奏：トルスタイ

日時：5月19日（土） 13:00～15:00

場所：東久留米市立中央図書館1階 みんなのへや

■ 最近の詩歌は楽しい図書館

館長：金原瑞人 さん

☆1954年岡山市生まれ。法政大学教授・翻訳家。訳書は児童書、ヤングアダルト小説、一般書、ノンフィクションなど500点以上。訳書に『不思議を売る男』（偕成社）『青空のむこう』（求龍堂）『豚の死なない日』（白水社）〈パーシー・ジャクソン・シリーズ〉（ほるぷ出版）『国のない男』（中公文庫）『さよならを待つふたりのために』（岩波書店）『月と六ペンス』（新潮社文庫）など。エッセイ集に『サリンジャーにマティーニを教わった』（潮出版社）など。日本の古典の翻案に『雨月物語』（岩崎書店）『仮名手本忠臣蔵』（偕成社）など。

★このところ、若い詩人、歌人、俳人の詩集、歌集、句集がとても楽しい。

新時代の幕開けのような気がします。どうぞ、楽しんでください。

■ 共和国国立図書館東久留米分館

館長：下平尾直 さん

☆2014年4月、東久留米市内に出版社、共和国を樹立。以後、代表兼編集兼営業兼事務兼奴隷として、なんとか5年目に突入しました。2018年4月末現在で32点。好きな言葉は「もっと飲んでください」、きらいな言葉は「ベストセラー」。

★いずれも共和国の「聖典」です。

いまわたしたちが生きている「世界」や「現実」が、けっしてただひとつありえる「世界」や「現実」ではないことを、本はわたしたちに教えてくれます。いまはまだないけれども、これからありえる「世界」や「現実」を考えてゆくための参考書です。

■ アフリカは旅をする図書館

館長：くぼたのぞみ さん

☆翻訳をしたり、詩を書いたり。南アフリカ出身でオーストラリアに住むノーベル賞作家、J・M・クッツェーと、ナイジェリア出身のチママンダ・ンゴズィ・アディーチェ、カリブ海の島グアドループ出身のマリーズ・コンデ、ハイチ系アメリカ人のエドウィーシ・ダンティカなど、アフリカ出身、アフリカ系作家の作品を多く訳してきて、近代化のために追いかけてきたヨーロッパやアメリカの全体像が理解できるようになりました。

★アフリカ大陸出身の作家、アフリカ系の作家などの作品を翻訳してきて気がついたのは、私たちの知識がヨーロッパや南北アメリカ大陸にとっても偏っていることでした。昭和25年生まれのわたしは、学校でアフリカを「暗黒大陸」と学びました。恐るべき偏見です。アフリカは日本が80以上すっぽり入る大きな大陸で、国も50以上あり、とても多種多様な人たちが、多種多様な文化と暮らしを営んでいます。そこから地球上のあらゆるところへ長いあいだに「アフリカ」は散らばってきました。人も。物も。そんな「アフリカ」を知る、散らばった先々のアフリカから知るための本をいくつか集めました。

■ 水の中図書館

館長：今野真@水中書店 さん

☆印刷会社員、古書店員を経て2014年に「水中書店」という古本屋を開店しました。

詩と映画とかわいい絵本が大好きです。よろしくお願いします。

★「水の中の図書館」という名前は、わたしが経営している古本屋の店名に因み、また読書という静寂の時間に身体を浸していくかのような営みを、水の中のしずけさに喩えたものです。

詩、俳句、短歌、随筆、小説、それぞれから一生懸命本を選びました。

■ TOKYO STREET FASHION LIBRARY

館長：magnif さん

☆“古本の街”である神田神保町に位置する古書店、magnif（マグニフ）。

国内外のありとあらゆるファッション雑誌を集めた個性的なラインナップで、2009年のオープン以降、多くの洒落者や趣味人たちが足繁く通う店となっている。最近ではアパレルショップのイベント協力など、その活動の幅は更に広がりを見せている。

★「あなたもすぐにお洒落になれる」「ファストファッションで充分！」いま新刊書店のファッション本コーナーを覗くと、こうしたタイトル、コピーばかりが目につきます。“お洒落”は人それぞれで、それらの本について否定するつもりは全くありませんが、こればかりで棚一面埋め尽くされてしまうと、なんだか寂しい気持ちになってしまいます。

「食」が単に栄養を摂取するためだけのもので無いのと同じく、「衣」もその効率だけで評価できるものではありません。アメリカをはじめとする諸外国への強い憧憬から発展を遂げてきた日本の服飾文化について、ファッションアイテムや着こなしの根底にあるカルチャーこそが大事だだったりと思うのです。今回集めたのは、マニア向けになりがちなウンチク本でなく、日本人とファッションの結びつきが見えてくるような読みやすいものばかりです。時間と手間をかけてお洒落を楽しむ事の意味を、皆さんと共有できたら嬉しいです。

■ トロル図書館

館長：トロル さん

☆なんだかんだと37年くらい“児童書”とかかわっている。もう、もう、おじいさんになりました。

★たくさん開いて、たくさん きいて みて

■ その本、とーちゃんも好きだったよ図書館

館長：はるやま さん

☆東久留米には2011年に引っ越してきました。吉川弘文館（よしかわこうぶんかん）という出版社で、営業や企画立案や屋敷をしています。鉄道に乗って遠くに行くこと、行った先で史跡を巡り、おいしいものを食べ、お酒を呑むことが生きがいです。今回は、仕事や趣味に関わることは離れたコンセプトの図書館を企画してみました。

★2013年12月、息子が生まれた直後に実家の母から大きな段ボールが2つ届きました。その中身は…私が小さい頃、書店員だった母が毎月買い与えてくれた「こどものとも」がぎっしり。とってあったんだ…。4歳になった息子は、その中からお気に入りの1冊を選んで「とーちゃんこれよんでー」と目を輝かせて膝の上に座ります。日々、たくさんの本が出版されては短期間で消えていく時代に、40年近く経っても新本で購入でき、図書館でも借りることができ、読み継がれている本もあります。自分が好きだった本を息子が面白がってくると、なんだか嬉しくなってきました。

そんなとーちゃんと息子のお気に入りの本。当時のものと、今読めるものを集めました。

■ 自由学園卒業生+図書館

館長：高橋和也 さん

☆1961年、埼玉県生まれ。自由学園男子最高学部、早稲田大学大学院教育学研究科卒業
世界新教育学会、日本ホリスティック教育/ケア学会、日本シチズンシップ教育フォーラム所属。
2016年4月より自由学園学園長

【共著】尾木直樹編著『子どもが自立する学校』（青灯社、2011年）、日本シチズンシップ教育フォーラム編『シチズンシップ教育で創る学校の未来』（東洋館出版社、2015年）、日本ホリスティック教育協会編『対話がつむぐホリスティックな教育』（創成社、2017年）

★市内にある私立学校自由学園の創立者、卒業生が書いた本の中から選びました。筆者は考古学者、映画監督、医者、料理研究家、カメラマン、新聞記者、編集者、Webデザイナーなど多種多様です。

■ 高校生のための図書館～2018年春バージョン

館長：ヨシダミチコ さん

☆東京都生まれ。マンガ「夜明けの図書館」（埜納タオ作）協力者。元横浜市図書館司書（26年勤務）、前職は学校司書。現在はフリー。日本図書館協会認定司書（第1090号）、JMLAヘルスサイエンス情報専門員（基礎）。ヤングアダルトサービス研究会、公共図書館員のタマシイ塾の立ち上げメンバー。

★昨年1年、目の前にいる高校生のためだけに本を選んでいました。

今の高校生に受け入れられている作家、求められている情報、彼らの興味・関心…

今、大人にもその存在を知って欲しい20冊をセレクトしました。

■ ものづくり情報ライブラリー 神奈川県立川崎図書館

館長：かわとくん

☆皆さんが必要とする情報を探るのが大好きです。図書館の魅力を伝えていけるように、日々、頑張っています。

★科学や技術など「ものづくり」を支える本や雑誌を集めている専門的な図書館です。最新の技術を知ることができる電子ジャーナルや、特許・規格なども閲覧できます。60周年を迎えた今年、川崎市川崎区から川崎市高津区に引っ越ししました。

■ すだちのまち図書館

館長：豊中市立図書館 さん

☆大阪の豊中市にある図書館です。豊中市は空路（大阪国際空港）、鉄道網、道路網すべてがそろっており、札幌、仙台、東京、福岡といった全国主要都市に3時間以内で到着可能な便利なところです。

図書館は、子どもの読書活動、障害者サービス、多文化サービス、地域情報のアーカイブ化など市民と協働でいろいろな取り組みをしています。

★すだちといっても柑橘類の「すだち」ではなくて「巣立ち」。

高校野球、高校ラグビー、高校サッカー、高校アメフト、ローソン、手塚治虫さん、山田洋次さん、B'zの松本孝弘さん、桐谷健太さんなどはすべて、豊中で生まれたり育ったりして全国へ巣立って行き大活躍の「人・もの・こと」です。くわえて豊中には大阪国際空港があって、図書館のキャッチフレーズは「まち、ひと、つながる好奇心の駅」。空港や駅といえば、巣立ちの出発点ですよね！

と、ということで「巣立ちのまち豊中」にまつわる本を集めました。

■ まちづくりのエンジンに！図書館

館長：吉田めぐみ さん

☆まちづくりのエンジン見習い4年目司書です。

児童サービス担当として「図書館を使った調べる学習コンクール」(図書館振興財団)に取り組んでいます。

2016年より、月替わりの企画展示にも加わり、現在展開中の5-6月展示「拝啓この本読んだ？」などを担当しています。

★「稼ぐインフラ」、公民連携事業で誕生した紫波町（岩手県）^{しわちやう}のオガールエリアの中にある紫波町図書館と紫波町の魅力を知ってもらいたい！

紫波町図書館の前身は、銭形平次で有名な作家野村胡堂の基金でつくられた胡堂文庫。

町で初めてできた図書館として、6年目をむかえました。図書館や司書が情報をつなげて、まちづくりのエンジンとなるべく奮闘中です。

■ 図書館の発行物を集めた図書館～東京23区編～

館長：サイト「東京図書館制覇！」運営者 竹内庸子 さん

☆2005年から、東京23区の区立図書館(約250館)を全て回ってみるというサイト「東京図書館制覇！」を運営しています。2007年に全ての区立図書館を制覇しましたが、その後図書館が増えたり、多摩地域の図書館にも足を伸ばしたりなどして、今も図書館巡りを続けています。

★図書館は、誰かが書いた書籍を収集しているだけでなく、自ら書籍や広報誌を発行しています。

その内容は、真面目なものから、遊び心いっぱいのもので、実にさまざま。

私が図書館巡りをする中で見つけた、図書館による面白い発行物を集めました。

■ 岡潔先生を巡る図書館

館長：すみれ さん （「春の野のすみれは、ただすみれのように咲けばよい」岡潔から）

☆20才の時、岡潔先生に会う。

著作を読む。

★昭和の時代、岡潔という一人の天才数学者が居ました。数学の世界にそびえたつ多変数解析函数山脈を創造し、21世紀になった今日もその山を越える数学者は現れていないといひます。

岡先生はわかりやすい言葉で多くのエッセイを残しておられます。

この機会に読んでいただけたらうれしいです。

■ 「モグラ原っぱ&団地ライブラリー1964」図書館

館長：ひーカンチョー（平賀研也）さん

☆1964年東京オリンピックの年の春 ぼくは東久留米団地に引っこしてきた 赤土の土けむりが高くまいあがり 青空がおうどいろに煙って それでもすごく明るくかがやいていたのをおぼえているよ できたばかりの団地には どのうちにもぼくとおない年くらいの子どもがいた そのころ東京にはたくさんの人があつまってきたので幼稚園や学校がたりなかった 母さんたちは自分たちで団地の集会所に幼児教室をつくり、僕はそこに通ったんだ ボンネットバスの西武バスと、赤色と肌色にぬられた西武線に乗って小学校にかよった。学校の帰りに電車に乗ると、保谷をすぎるあたりからはあたりいちめん畑しかなくて、その中に、ケヤキの防風林に囲まれた農家や雑木林がぼつりぼつりと見えた。ぼくはそんな地平線に真っ赤な太陽がどーんと沈んでいくのを電車の窓からながめていた。学校から帰ると団地の中にあつた雑木林のお気に入りの木に登ってひとりでボーッとしたり、その裏に見渡す限りに広がる芝の畑のあいだにある原っぱでひとりで秘密基地を作って遊んだ。遊びにきた伯父さんと一緒に団地のとなりの畑で縄文土器を拾ってドキドキしたことも忘れられない思い出さ。夏にはカブトムシやクワガタやバッタをとりながら畑の中を歩いて黒目川のそばのドーナッツ池によく行った。スルメをエサにしてアメリカザリガニをつったんだ。帰り道、ふりかえると東久留米駅を出た電車が夕焼けの土手の上を走っていくのが見えた。今思えば、まるでとなりのトトロに出てくる景色にそっくりだったな。きっとみんなは信じられないだろうけれど 50年前の東久留米ってそんなとこだったんだ 中学2年生のとき東久留米をはなれた。東京で高校生になって、大学生になって、会社につとめるようになったけれど、ときどきはっきりと思い出す東久留米の団地と雑木林や原っぱで過ごした子どもときの風景はぼくのだいじな宝物だった。今から16年前にひとりムスコが小学校に入るとき、ぼくら家族は長野県に引っこした。今ここで見えるのは、どこまでも続く畑と川と山とまっ青な空。どこか子どもころの東久留米を思い出するような景色なのさ。そして、どういうわけか、ぼくはいま、図書館でたくさんの本に囲まれて仕事をしている。そのなかにはあの懐かしい、もう今はない東久留米の景色がえがかれた本もちゃんとあるよ。（ひらが・けんや：県立長野図書館 館長）

★1964年に東久留米団地に引っ越して来た男の子の本との出会いとその後

■ 「多摩デポ」図書館・東久留米分館

館長：「多摩デポ」事務局員BONさん

☆「多摩デポ」は、図書館の蔵書作り支援と少々の未来構想を提案する（実際ある）NPOで、正式名称は「特定非営利活動法人 共同保存図書館・多摩」と言います。読みたい者の希望に応えるために、普段から図書館は資料の相互貸借で助け合っていますが、どこも図書館の収蔵能力には限界があり、書庫は満杯状態です。多摩地域の図書館が共同して保存する仕組みを作れば、いつまでも多様な資料提供に応えられると、図書館OB、OGや図書館を考える市民らが取り組んでいます（ホームページも見てください）。

BONもそんな活動に参加しています。

★そんな活動をする「多摩デポ」BON館長の頭の中には、これまで日本や世界のあちこちで図書館に想いを寄せ、図書館のようなものを作り出し、育ててきた人々の話が詰まっています。書庫が満杯で除籍される蔵書を考えると、戦争や自然災害で壊された図書館のことを想います。「今は平和な時代だからいいね」ではなく、開館後30年、40年、いやそれ以上たっても蔵書を地域全体では維持していけるバックアップの仕組みぐらい、平時の図書館になくては！と考え直す。面白くもシリアスな蔵書が一杯！

コンセプトは「図書館をつくる／図書館を守る／図書館が壊れる／図書館のトリセツ」

■ シャーロックアン養成図書館：中級編

館長：レストレード&グレグスン さん

☆日本シャーロック・ホームズ・クラブ会員。もはやベテランと呼ばれてもおかしくない年齢・会員歴ながら、ホームズ・クラブ内ではまだまだ若手。

両名とも、ホームズ本が出ては無視できない体質に既に蝕まれている。

ホームズを通して、出版や古書、図書館の世界に関わる。

★昨年に続いての出展です。昨年は、新たにホームズに興味を持った人たちのため、新刊書店では買えないホームズ関係書の中から、基本書をピックアップしました。今年は中級編として、ホームズ物語の書かれたヴィクトリア朝時代の文化や歴史、人々の生活などについて説明している本、ミステリや世界文学におけるホームズ物語の位置付けについて解説した本などを揃えました。ホームズ物語全作品と、主要なホームズ研究書を一通り読んだ方の次のステップとしてお勧めです。

本や図書館に関する情報を集めて中央図書館が発行する情報誌『ぼけっと』の編集部員が「ひとハコ図書館」の館長に！

■ Fun Wonders 図書館

館長：本の虫ユウ さん

☆高校で図書委員をしている 18 歳です。図書館で活動をさせてもらって、ぼけっと誌上でコラムを書かせていただいています。映像や文学など媒体を問わず物語が好きです。特に好きなジャンルはミステリですが、面白ければ結構なんでも読みます。

★大人も子供も読みやすいミステリ初級編から、少しマニアックな上級編までのおすすめのミステリを集めました。どれも登場人物が魅力的なもののばかりです。

また、物語の登場人物たちがまるで現実にいるかのように書かれている番外編の本もおいています。

■ 西尾物語図書館

館長：PIRAFU さん

☆皆さんこんにちは。ぼけっと編集をしている PIRAFU です。好きな物は白と甘味

今僕が大好きな本は「アラルエン戦記」です。

今回は僕が SONNKEI している西尾さんの物語シリーズの紹介をしたいと思います。

★西尾さんの書いた物語シリーズを集めました！

時系列順に並べたので、始めからぜひ読んでみてください。

■ 東野圭吾図書館

館長：コータ さん

☆初めて好きになった本は「おつきさまこんばんは」その後「ねないこだれだ」をへて「ぐるんぱのようちえん」にいたる。小学生になり「魚図鑑」と「恐竜図鑑」に没頭。初めて購入したのは、マジックツリーハウスシリーズの「恐竜の谷の大冒険」。中学生になりライトノベルや東野圭吾にはまる。

★東野圭吾の幅広い分野の内容を知ってもらいたいと思いました。

理系出身の特徴を生かしたもののや展開のハラハラする推理物、シーンとくるような物語など多才な方なので、まだ読んだ事のない人はぜひ手にとってみてください。

■ シャーロック図書館

館長：みちる さん

☆ミステリーが好きな中学生、みちるです。ミステリーではとくにシャーロック・ホームズが大好きです。

また、富安陽子さんの非現実的なお話も大好きです。

これからも、いろいろな本に挑戦し、お気に入りの本を増やしていきたいです。

★ミステリー本ばかりを集めた図書館です。

中高生だけではなく小学生や大人の方にも楽しんでいただける本も置いています。

■ 武侯祠図書館

館長：青楽天 さん

☆サッカーと歴史ものが好き。

足は速いほうです。

★三国志の本を集めました。

歴史が好きな人やそうではない人も、ぜひ読んでみてください。

きっと自分が好きな人物に出会えるはずです。

